

総務広報委員会事業計画表

委員長名 山賀 貴美 印

<p>【テーマ】 LOMの根幹を支える存在となろう</p> <p>【主旨】 秋田JCは、地域住民とともに明るい豊かな社会実現のために運動を行ってきました。 今後も地域に根差した運動を展開していくために、組織の信用を高め、秋田JCへの理解と協力の輪を広げる必要があると考えます。 そのために実務を確実にし、時代に即した効果的な情報発信を行うことで、メンバーが運動しやすい環境を整えJC運動の発展を目指します。</p>	<p>【具体的内容】 (1)総会の設営・運営を行い、議事録を作成します。 (2)基本資料・会員名簿の作成をします。 (3)理事会に提出する各種資料のコンプライアンスチェックを行います。また、理事会の議事録を作成します。 (4)公益法人格について理解を深め、職務全般を行います。 (5)リーフレットを作成し秋田JCの運動・情報を発信します。 (6)JCニュースの企画、編集やホームページやSNSの更新、運営を行うとともに、各種媒体を活用し秋田JCの運動・情報を発信します。 (7)秋田ブロック大会へJCメンバーの参加促進を行い、県内各地会員会議所や地域住民との交流を通じて協力の輪と友情を広げます。 (8)1年の活動・運動を振り返り2017年度へ想いをつなげる場を設けます。</p> <p>【進め方】 (1)(2)(6)委員会でを行います。 (3)-①法令に基づき審査します。 (3)-②議事録を委員会で作成します。 (4)有識者を交え勉強会を開催し、委員会で職務を行います。 (5)会員拡大委員会と連携し委員会でを行います。 (7)7月例会の設営・実施及び秋田ブロック大会への参加を積極的に呼びかけます。 (8)常任理事と連携し、実施します。</p> <p>【成果発表の方法と時期】 (1)2017年1月の通常総会にて行います。 (2)基本資料・会員名簿を作成します。 (3)-①②理事会にて報告します。 (4)勉強会Ⅱ及び委員会にて必要に応じ行います。 (5)活用方法を集計し第12回理事会にて報告します。 (6)JCニュースを毎月発行し、ホームページ、SNSを随時更新します。 (7)担当例会Ⅰにて行います。 (8)担当例会Ⅱにて行います。</p>															
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
主要事業スケジュール				通常総会 京都会議					ASPA C(高雄)	ブロック大会 (大館) サマコン (横浜)		青年フォーラム (登米)	全国大会 (広島)	世界会議 (ケベック)		通常総会
例会担当							例会準備			担当例会 Ⅰ		例会準備	総会準備		担当例会 Ⅱ	通常総会
委員会年間スケジュール	候補者会議議事録作成 前年度より引き継ぎ		JCニュースの企画発信及びHPの運営管理、SNS等の情報発信	理事会議事録作成								会員名簿 基本資料の作成				通常総会議事録作成
	リーフレットの検証・企画			活用方法集計											集計結果報告	
			勉強会Ⅰ準備		勉強会Ⅰ					勉強会Ⅱ準備			勉強会Ⅱ			

会員拡大委員会事業計画表

委員長名 金森 隆亮 印

<p>【テーマ】 秋田 J C としての誇りと責任を胸に、不断の会員拡大をしよう</p> <p>【主旨】 私たち秋田 J C が、今後も積極的な活動・運動を展開していくためには会員の拡大は必須です。 秋田のキャピタル J C としての誇りと責任、役割を再認識し、J C メンバー一丸となって会員拡大運動を進めます。</p>	<p>【具体的内容】 (1) J C メンバーが入会候補者に対し、J C の魅力をより伝えやすくなるようツールの内容、活用方法等を協議します。 (2) J C メンバー全員が会員拡大の必要性を認識し、一丸となって 30 人以上の会員拡大を図ります。 (3) 講師を招いての勉強会を企画し、J C 活動を入会候補者が、J C メンバーと共に体験できる機会を設け、入会促進につなげます。 (4) 仮会員に J C の持つ魅力、意義を伝え、今後積極的に活動・運動に参加できるようフォローをしていきます。 (5) 秋田 J C シニアクラブ会員、他 LOM、他団体との連携を視野に入れ、交流を深めることにより、秋田のキャピタル J C としての誇りと責任、役割を再確認し、J C メンバーの資質向上と今後の J C 活動・運動の発展につなげます。</p> <p>【進め方】 (1) 総務広報委員会と連携し、委員会にて行います。 (2) ①講師をお招きし、これまでの拡大運動と照らし合わせながら、会員拡大の手法を学ぶ例会を企画・実施します。 (2) ②入会候補者を各委員会に担当振り分けし、委員会訪問、会員拡大会議にて進捗状況を常時確認します。 (2) ③各委員会と連携し、会員拡大委員会が率先して入会候補者リスト全員のコンタクトを図り、会員拡大運動を進めます。 (3) 委員会で内容を協議し、異業種交流会を企画します。 (4) 委員会でこれまでの内容を検証し、J C スクールを企画します。 (5) 他団体等と様々な意見交換が出来る例会を企画します。</p> <p>【成果発表の方法と時期】 (1) 会員拡大会議にて報告します。 (2) ①担当例会 I にて行います。 (2) ②理事会や会員拡大会議にて報告します。 (2) ③会員拡大会議にて報告します。 (3) 異業種交流会 I II III にて行います。 (4) J C スクールにて行います。 (5) 担当例会 II にて行います。</p>																
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
主要事業スケジュール				通常総会 京都会議					ASPAC (高雄)	ブロック大会 (大館) サマコン (横浜)		青年フォーラム (登米)	全国大会 (広島)	世界会議 (ケベック)		通常総会	
例会担当		例会準備	→	担当例会 I					例会準備	→	担当例会 II						
委員会年間スケジュール	入会希望者募集																→
	前年度より引き継ぎ	→	会員拡大会議	各委員会訪問													→
	リスト精査	→		J C スクールの検証・企画	異業種交流会 I	面接式	異業種交流会 II	→		異業種交流会 III J C スクールの検証・企画			面接式	→			→
	拡大ツールの検証	→															→

青少年育成委員会事業計画表

委員長名 石和田 圭 印

<p>【テーマ】 あきたが誇る育成環境や伝統文化を継承し、優しく強い青少年を育もう</p> <p>【主旨】 秋田県には、全国1位の学力を持つ青少年を育む豊かな育成環境や、地域に脈々と受け継がれる伝統文化があります。 責任世代である我々は、何事にも勤勉で地域を大切にす健全な青少年を今後も育てていくために、この誇れる環境や文化を次世代へ継承していかなければなりません。 そこで、恵まれた育成環境の中で青少年の視野を広げ、さらなる可能性を引き出し、地域の伝統文化により深く携わり継承していくことで、優しく強い地域愛に溢れた青少年の育成を目指します。</p>	<p>【具体的内容】 (1)親子で物事を多面的に捉える力を養う場を通して、豊かな育成環境を次世代に継承し、優しく強い青少年を育成します。 (2)あきたの伝統文化に直接ふれあう場を通して魅力を伝え、地域愛溢れる青少年を育成します。 (3)JCメンバーが、青少年とともに地域に受け継がれる伝統文化により深く携わることで、その意義を次世代につなぎます。 (4)第20回わんぱく相撲秋田ブロック大会の支援を行います。</p> <p>【進め方】 (1)有識者を招いた親子参加型の事業を企画・実施します。 (2)他団体と協働し、体験型の事業を企画・実施します。 (3)-①関係団体と連携し、事業を企画・実施します。 (3)-②前年度と①の取り組みから、JCメンバーが継続して参加する方法を検討します。 (4)秋田ブロック協議会と連携し実施します。</p> <p>【成果発表の方法と時期】 (1)担当例会Ⅰにて実施します。 (2)事業にて実施します。 (3)-①担当例会Ⅱにて実施します。 (3)-②オープン委員会を開催し、理事会にて報告します。 (4)随時対応および報告をします。</p>															
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
主要事業スケジュール				通常総会 京都会議					ASPAC (高雄)	ブロック大会 (大館) サマコン (横浜)		青年フォーラム (登米)	全国大会 (広島)	世界会議 (ケベック)		通常総会
例 会 担 当					例会準備	→		担当例会 Ⅰ 例会準備	→		担当例会 Ⅱ					
委員会年間スケジュール	前年度からの引き継ぎ	秋田JC 竿燈会と 竿燈まつり 参加方法の検討	→			事業の企画・検討・準備	→		事業の実施	秋田JC 竿燈会練習参加	オープン 委員会の 準備	オープン 委員会の 実施	意見の精査と今後の検討・準備	報告実施		
							わんぱく 相撲の対応	→								

環境行動推進委員会事業計画表

委員長名 石黒 佐太朗 印

<p>【テーマ】 環境行動のバトンを世代から世代へとつなげていこう！</p> <p>【主旨】 昨今の地球温暖化による影響もあり、私たちが愛するあきたの四季折々の表情が色あせてきているように感じます。 豊かな環境を守っていくには、一人ひとりが当事者意識を持って、環境行動を永続的に続けていく必要があります。 そこで、私たちから次代を担う世代へ、そしてさらに次の世代へと環境行動を続けることの重要性を伝え、受け継いでいくことで、あきたが誇る風光明媚な環境を未来へとつないでいきます。</p>	<p>【具体的内容】 (1)サケの稚魚放流事業を企画、実施し、環境を守り続けることの大切さを伝えます。 (2)身近に行える環境への取り組みを学び、環境行動を継承していくことへの理解を深める場を設けます。 (3) (2)を踏まえ、次代を担う世代とともに子供たちに伝え、楽しみながら実践する場を設けます。</p> <p>【進め方】 (1)行政や他団体と連携して企画、実施します。 (2)行政と連携し、他団体と協同して企画、実施します。 (3)学生、他団体と協同して企画、実施します。</p> <p>【成果発表の方法と時期】 (1)担当例会Ⅰにて実施します。 (2)担当例会Ⅱにて実施します。 (3)9月に事業を実施します。</p>															
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
主要事業スケジュール				通常総会 京都会議					ASPAC (高雄)	ブロック大会 (大館) サマコン (横浜)		青年フォーラム (登米)	全国大会 (広島)	世界会議 (ケベック)		通常総会
例 会 担 当				例会準備	→ 担当例会Ⅰ				→ 担当例会Ⅱ							
委員会年間スケジュール	前年度よりの引き継ぎ	→						事業企画 検討	事業準備	→		事業実施				

あきたの魅力発信委員会事業計画表

委員長名 井上 大輔 印

<p>【テーマ】 交流人口拡大を目指し、あきたの誇れる魅力を発信しよう</p> <p>【主旨】 あきたには、多くの誇れる魅力が存在します。我々はその中の一つである醸造文化をこれまで広く発信してきましたが、その他の魅力も発信していくことで、地域活性化への効果はより高くなると考えます。 そこで今年度は、これまでに培ってきた醸造文化の継続的な発信とともに、それ以外のあきたの魅力を再認識し効果的に発信することにより、地域活性化につながる交流人口の増加を目指します。</p>				<p>【具体的内容】 (1) 公益社団法人秋田青年会議所として、2016年度の活動を発信する場を設けます。 (2) あきたの魅力を再認識し、それらを活用した交流人口増加につながる事業を実施します。 (3) 秋田醸しまつりを行い、更なる発展を目指します。</p> <p>【進め方】 (1) 新年例会を企画・運営します。 (2) 地域に存在する魅力とその活用方法を調査・分析し、より発信力の高い事業を企画・実施します。 (3) 協力団体と連携し、実行委員会を運営して秋田醸しまつりを企画・実施します。</p> <p>【成果発表の方法と時期】 (1) 担当例会Ⅰとして新年例会にて行います。 (2) 事業にて実施します。 (3) 担当例会Ⅱとして秋田醸しまつりを実施します。</p>												
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
主要事業スケジュール				通常総会 京都会議					ASPAC (高雄)	ブロック大会 (大館) サマコン (横浜)		青年フォーラム (登米)	全国大会 (広島)	世界会議 (ケバック)		通常総会
例会担当	例会準備			担当例会Ⅰ						例会準備			担当例会Ⅱ			
委員会年間スケジュール	前年度より引き継ぎ	事業調査		事業準備					事業実施	事業検証				醸しまつり実施	事業検証	

少子化対策委員会事業計画表

委員長名 松本 剛 印

<p>【テーマ】 少子化問題解決のために、今こそ考え・実践しよう！</p> <p>【主旨】 少子化問題は日本全体で社会問題となっており、我々が暮らす秋田も人口流出、婚姻・出生率低下により、人口減少がより深刻になっています。行政や他団体も対策を行っていますが、未だ大きな成果は表れておらず、さらなる対応が急務であると考えます。 そこで責任世代である我々が次代を担う若年層とともにこの問題を学び、青年会議所だからこそできる効果的な少子化対策を企画・実践し、多くの人々が夢と希望を抱ける社会を目指します。</p>	<p>【具体的内容】 (1) 次代を担う若年層とともに、少子化が引き起こす問題について認識・自覚し、課題と対策について学ぶ場を設けます。 (2) 若年層を中心に、出生率の基礎となる婚姻率を高める実践的な事業を実施します。 (3) 若年層とともに出産・子育てに対して環境の整備につながる事業を実施します。</p> <p>【進め方】 (1) 有識者による講演形式の例会を委員会で企画・実施します。 (2) 行政・他団体が行っている事業を調査・分析し、委員会内で効果的な手法を見つけ出して事業を企画・実施します。 (3) 行政・他団体と年間を通して連携し、少子化対策成功地域の手法を委員会にて学び企画・実施します。</p> <p>【成果発表の方法と時期】 (1) 担当例会Ⅰにて行います。 (2) 7月事業にて行います。 (3) 担当例会Ⅱにて行います。</p>															
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
主要事業スケジュール				通常総会 京都会議					ASPAC (高雄)	ブロック大会 (大館) サマコン (横浜)		青年フォーラム (登米)	全国大会 (広島)	世界会議 (ケベック)		通常総会
例会担当			例会準備	→	担当例会Ⅰ						例会準備	→	担当例会Ⅱ			
委員会年間スケジュール		行政・他 団体との 連携				事業の企画・検討	事業準備	→	事業実施							